

認知症の人と接する時は…

「急がせないで」

製鉄室蘭病院
林科長が解説

製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)の「第35回市民健康セミナー」が7日、

室蘭市知利別町の同病院が、
ん診療センターで開かれ、
市民ら約70人が「認知症」
の症状や種類、診断、治療
などについて学んだ。

同病院脳神経外科の林征
志科長が解説。まず、最初
に「物忘れの全部が認知症
ではない」と強調。老化に
よる物忘れのほか、健常者
と認知症の人の中間段階と

なる軽度認知機能障害(M
CI)などとの違いについ
て説明した。

また、日本人に一番多い
アルツハイマー型は「新し
いことが覚えられなかった
り、月日や日時が分からな
い」、脳血管性は「物忘れ
や理解力低下」、レビー小
体型は「パーキンソン様症
状、幻視、妄想など」と、
種類別の特徴を解説した。
その上で、「早期の治療
によって進行を遅らせ、

『(日常生活で)できるこ
と』をなるべく長く維持さ
せることが大切」とし、認
知症の人と接する時は「驚
かせない、急がせない、自
尊心を傷つけないことを心
掛けてほしい」と呼び掛け
た。
(松岡秀宜)



「認知症」の症状などについて解説する林科長